鴨川ふるさと会だより

―第５号―

鴨川ふるさと会事務局発行 ： 〒296-8601　千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課内）　TEL:04-7093-7828

平成22年度定期総会を開催しました！

去る８月１日（日）、東京都中央区のホテル銀座ラフィナートを会場に、石田三示衆議院議員、片桐有而市長、長谷川孝夫教育長を来賓にお迎えして本年度の定期総会が開催されました。その開催結果については既にお知らせしたところですが、今回は総会当日の模様を皆さんにお伝えします。

冒頭のあいさつ

総会は、石川会長と片桐市長のあいさつで幕が開きました。

石川会長からは、ふるさと納税の申出の推進やふるさと大使の推薦といった市政への協力とともに、会報の発行をはじめとする会の活動の充実についても、精力的に進めていく旨の挨拶が行われました。

また、片桐市長からは、ふるさと会による市政への協力に対する感謝とともに、少子高齢化やデフレなど厳しい社会情勢が続く中で、今後も慣例に捉われない行財政改革により一層力を注いでいくことなどが述べられました。

総会の議事

総会では、事務局から提案された議事全てについて、原案どおり承認が行われました。

今後二年間の会の舵取りをお願いする新役員十三名の選出では、既にお知らせのとおり、会長と副会長二名は留任。退任とそれに伴う新任は、理事三名と監事一名でそれぞれ行われました。

また、平成二十二年度の収支予算については、鴨川市が実施した、市が支出する全ての補助金等を対象としたゼロベースでの見直しと、昨年度の総会で会員からいただいた、会の運営の経済的自立に関するご意見などから総合的に判断した結果、まず本年度については市交付金を受けずに運営を行い、繰越金の解消を図ることとしたいという説明が事務局から行われました。

なお、会則の改正は、鴨川市の行政組織の再編に伴い、会の事務局が置かれる部署名が変更となったため一部を改正したものとなります。

石田議員の講演

鴨川市出身の衆議院議員石田三示氏からは、「地域振興への想い」と題した講演が行われました。

これまで大山千枚田での地域間交流に深く関わってこられた経験から、「抱える課題が大きい地域ほど良い方向に変わる可能性を秘めているが、実際に変化を起こすに当たっては都市部に住む人の能力・ネットワークや行政の手助けが有効。鴨川と都市の両方を知る会員と行政により運営されるふるさと会の皆さんと一緒に、この地域を盛り上げていきたい」というお話をいただき、会場は拍手に包まれました。

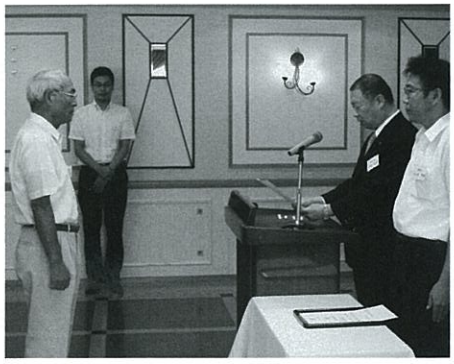
市政懇談会と提言

市政懇談会では、片桐市長から鴨川市における本年度事業等の概要について説明が行われた後、長谷川教育長を交え、会員との間で活発な意見交換が行われました。

懇談会の最後には、昨年度から本年度にかけて、市が会員を対象として実施したまちづくりアンケートの集計結果を踏まえて、主に理事会において作成された「鴨川市第２次５か年計画の策定に係る市への提言」について、石川会長から片桐市長への説明と提出が行われました。

これを受けて、片桐市長は「ご提言の内容とそこに込められた想いを深く受け止め、計画の策定に当たって活かしていきたい」、長谷川教育長は「教育改革に係る具体的な目標の実現等を通して、今後もしっかりとした教育を推進していきたい」と述べた上で、それぞれ感謝の意を表しました。

ふるさと大使 委嘱状交付式



懇談会後には、昨年度に引き続いて、鴨川ふるさと大使の委嘱状交付式が執り行われました。今回就任をご承諾いただいた十二名の方のうち、当日にご出席いただいた六名の方に、片桐市長から委嘱状が直接交付されました。

懇親会

会場を変えて開催された懇親会は、長谷川教育長による乾杯で開宴しました。

同郷の仲間との気のおけない歓談の合間には、会が創設された時の事務局長で、現在は石田議員の政策秘書を務める古市一雄氏から、変わらぬ会への深い想い入れや今後への期待などについてあいさつが行われました。

また、会場では、ふるさと産品の展示即売のほか、豪華景品を賭けての抽選会も行われました。千葉ロッテマリーンズ鴨川後援会のオリジナルグッズや長狭米、寿萬亀の呑み比べセットなど、事前に用意した景品の当選者が決まった後も、片桐市長や石川会長が即売スペースで仕入れた地元産品を景品として提供するなど、会場は大きな盛り上がりを見せました。

最後は、昼間副会長による締めの発声に続いて、池田一男さんの音頭で来賓の御三方は壇上へ。そして、全員で万歳三唱！

お帰りの際、おみやげを受け取る皆さんの顔は一様に晴れやかでした。

ふるさと広場

会員の皆様からの声をお届けするページです

「鴨川里山物語」

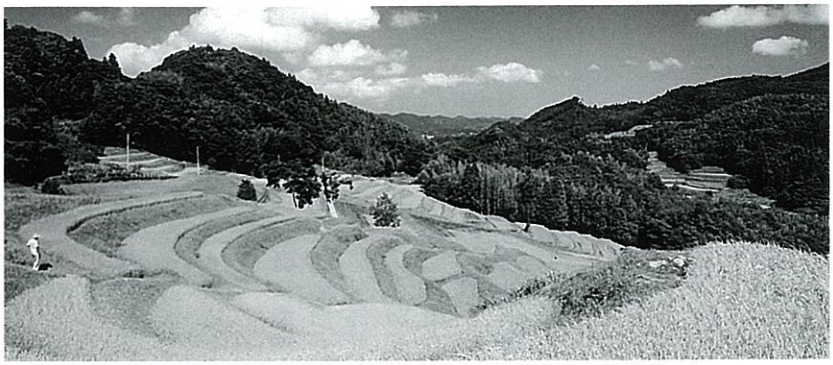
鴨川ふるさと会副会長　昼間　洋子

二〇一〇年六月、横浜で「猫の手援農隊」十周年の記念パーティがあり、ゲストスピーカーに「みんなみの里」の清水さんがお話をされた。私も援農隊に参加したことがあった関係で、パーティに行ってきた。

援農隊とは、名前の通り繁忙期の農家を手伝いにいったり、高齢化で手が足りない農家に伺い作業を少しでも手助けしようという趣旨のボランティアでもある。休日にわざわざ参加費自腹で出かける殊勝な人が実はいるのである。パーティ席上では三十数回の援農に参加した方や、援農が縁で結婚したカップルが壇上で表彰された。もとは、ＪＡグループの全国農協観光協会が企画を立てたものであるらしい。

私も最初は全国農協観光協会の交流企画で鴨川を訪れた。四・五年前になるが、仕事の同僚が、アクアラインに行ったことがないと言うので、秋葉原発の「水仙の郷」訪問のツアーに参加した。鴨川（川口）生まれの私でも、自分の生活範囲と違う山田・法名地区は名前も聞いたことがなかった。君津インターを降り山道に入ると雪が降り出した。みんなみの里で一休みし、ツアーの人たちがあっという間に買い物かごを一杯にするのを唖然としながら見ていた。帰りに買えばいいじゃないかと思ったが、慣れている人たちは取り置きをしておいて、帰りに清算するとのこと。確かに夕方には品物が無くなっていた。バスは長狭街道をどんどん保田方面に向い、ほとんど鴨川市のはずれまで行った。それから歩いていくと「ふるさと峠」で地元の人たちが甘酒と

焼き芋で歓待してくれた。寒い日だったので、あたたかな焚き火がうれしかった。地区の集会場に上がって、おにぎりと豚汁をご馳走になった。食後はどんどん山へ上がり、鋸南との境の水仙畑へ。雪の下の水仙はなんとも幻想的だった。帰り道は八朔をご馳走になったり、水仙を頂いたり、里山を満喫して秋葉原へ戻った。鴨川出身でも、全く知らない鴨川の姿にふれ、地元の人たちとふれ合い、同僚に対



しても、自分の故郷を自慢できた一日だった。川名さん、その節はお世話になりました。

援農目的ででかけたのは去年の「みかん総取り」隊である。同じく秋葉原からバス一台で出かけた。「みんなみの里」でグループ分けされ、それぞれの農家の迎えを待った。車に分乗し、お宅へ向う。身支度をしてからいざみかん山へ。斜面に植わっているみかんの木から実をもぎ取っていく。猫の手でも人数がいると捗る。私達も成果が目に見える作業なので本気でやった。十二月でも暖かな山の中で汗をかきながら作業した。お昼ご飯は手作りのおにぎり、豚汁、焚き火で干物を焼いてくれた。ツアーでくれたお弁当は食べずに持ち帰り。すっかり綺麗になったみかん山を満足に眺めながら帰宅。お宅に上がりこみ、お茶とお菓子を頂き、とても今日始めて出会った人たちとは思えない位だ。お土産にブルーベリーや唐辛子のリースを頂き、また「みんなみの里」へ。最後は参加者と受け入れ農家の皆さんでおいしい食事会。すっかり満足して帰路についた。

私は鴨川以外の場所に援農に行っていないので、他所との比較はできないが、都会の人たちが何を求めて鴨川に来るのかが分かる気がする。もちろん、鴨川の美しい海や、里山、川の流れといった自然。美味しい食べ物。そして何より地元のひとたちとのふれ合い。たった一日のことでも、本当に充実した素晴らしい休日。この日ももちろん、私は地元出身を鼻高くして自慢したのでした。

「我が母校と鴨川」

鴨川ふるさと会監事　山田　健男

私は父の転勤先新潟県十日町市で生まれたが、小学生のとき父が戦死し、それ以後は母の郷里である旧和田町から長狭高校に進学した。

敗戦後の、とりわけ母子家庭の生活は厳しく、当時、休日は勿論のこと時間を見つけては、魚の行商をしていた母を手伝っていたが、子供の頃から絵を描くのが好きだった私は、同校の美術担当であった恩師吉田茂夫先生の影響もあり、いつしかデザインに興味を持つようになっていた。

高校を卒業して下宿した家の前にイデア工房鴨川店があった。徽章・バッジ等を製作する会社で、店主の山田信さん夫妻には子供が無かった。当時二十三歳であった私は、事故で視力を失っていた信さんへの同情やデザインへの特別な興味から、請われるままに養子となった。

イデア工房鴨川店を継ぐことになった私は大きな責任を感じ、安房のみならず君津・夷隅・長生地区へと懸命に販売先を広げた。はじめは自転車で、次はバイク。中古軽自動車に換えたのは昭和三十七年、二十八歳の時だった。翌年に恩師高梨芳清先生の紹介で結婚したせつ子（当時二十四歳）は経理を全て担当してくれて助かった。

当時の千葉県は、京葉工業地帯の形成に伴い大きな変貌を遂げつつあった。大きな賭けであったが、将来を考え千葉市へ進出したところ、京葉地区の学校新設ラッシュもあり、今日までに百六十四校の校章デザインに加え、徽章・バッジ・校旗等の製作を手掛けることとなった。

ここで忘れてはならないことは、千葉市に進出して間も

ない時、大海に漕ぎ出した小船のようで戸惑うことばかりであった私に手を差し伸べてくれたのは、県庁や教育会で大活躍しておられた長狭高校の多くの先輩方であったということである。

その後、会社は順調に進展し、十数名の営業社員を雇うまでになった。新社屋を建設し今の株式会社イデア工房を設立したのは、千葉市進出六年目の昭和五十一年、四十三歳の時である。現在は社長職を子供に譲り私自身は会長として協力している。

こうして振り返るまでもなく、私の人生のターニングポイントにはいつも長狭高校の存在があった。

私がデザインに興味をもつきっかけをくださった吉田先生をはじめ、公私を含めた大切な出会いの多くは、同校が縁を結んでくれたものだった。

そして何よりも、同校の綱領「誠実」「勤倹」「高潔」こそは、私が卒業後も終始一貫して守り通している処世訓である。

今の私があるのは、正に長狭高校あってこそと感謝している。

海あり山あり川あり平野あり、その上気候温暖、風光明媚、しかも首都東京から二時間という鴨川の好条件を活かすためには、地域が育て、そして地域で暮らす優秀な人材の育成が必要不可欠である。

可能性に溢れた我がふるさとが益々発展することを期待し、会員としてお役に立ちたいと願っている昨今です。

事務局からのお知らせ

会費制等に係るアンケート

本会も設立から十年を超え、その会員数も本年十月末時点で丁度四百名となりました。

こうした状況を受けて、先に開催された理事会では、会費制の導入を含む今後における会の運営方法について話し合いが行われ、本件について会員の皆さんにアンケートを実施することといたしました。

つきましては、会費制に関することや、今後実施して欲しい事業など、皆さんの忌憚のないご意見を同封のアンケート票へご記入いただき、事務局までご返送いただけますようお願い申し上げます。

皆様のご協力をお願いいたします。

ふるさと産品セット

これまで、本会では市内に立地する総合交流ターミナル「みんなみの里」の協力を得て、会員の皆様向けに特別の商品プラン「ふるさと産品セット」を斡旋させていただいてきました。

本年も、本会報にパンフレットと申込票を同封させていただきましたので、ご自宅用に、または贈り物として、鴨川の味覚を是非ご利用ください。

ふるさと納税の本年度実績

鴨川市へのふるさと納税につきましては、会の皆さんからも大きなご協力をいただき、これまで順調に推移してきているところです。

ここでは、本年度におけるこれまでの実績をご報告します。

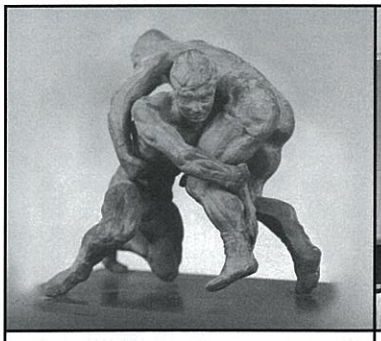
十月末時点で、全体としては五十八万円（三十七件）となっており、制度が開始した平成二十年度からの累計では、四百九十万円（百五十三件）となります。そのうち会員の皆様からのご寄附は、本年度は二十三万五千円（十件）、平成二十年度からの累計では百五十九万円（三十八件）に上ります。この場を借りて御礼申し上げます。

なお、ふるさと納税のお申出については随時受付を行っていますので、本会の事務局でもある鴨川市役所企画政策課へご連絡いただくか、またはふるさと納税専用ホームページ「鴨川ふるさぽーと」をご覧ください。

広告・掲載記事の募集

この会報を発行しているふるさと会の事務局では、会報に掲載していただける会員発の記事や広告を募集しています。

日頃感じられていることや経営するお店に関することなど、どのようなことでも構いませんので、ご希望のある方はご気軽に事務局までお問合せください。なお、広告料はおよそ十センチ×十センチを一コマとした場合で三千円となりますので、ご参考としてください。



レスリングチャンピオンブロンズ

長狭高校 三大綱領

高体連 優勝メダル

〈イデアの理念〉
1. 黒子はイデアの理念です。
2. シンボル作りはライフワークです。
3. アイディアのイデア・イデアのアイディア。
4. 最高のシンボル日の丸・日の丸を目指して。
5. あきらめません勝つまでは。

株式会社イデア工房
〒260-0844千葉市中央区千葉寺町1210-13
TEL043-265-4321/FAX043-265-4322
e-mail：idea-koubou@gol.com